

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
平成30年12月号

県内産地が大集合！千葉県秋冬野菜販売出陣式開催

流通販売課 首都圏マーケティングセンター
副主査 入倉 敏広

県産秋冬野菜の本格出荷に先立ち、国内最大の取扱数量を誇る東京都中央卸売市場大田市場で「千葉県秋冬野菜販売出陣式」を開催しました。大田市場開場30年目の節目にあたる今年は、例年を上回る多くの産地関係者が参加し、主力36品目の野菜の展示と、だいこん、にんじん、ねぎ、さつまいも等の試食提供により本県産秋冬野菜の品目の多彩さと新鮮さを多くの買参人にPRしました。

11月6日、千葉県、全農千葉県本部、(公社)千葉県園芸協会、千葉県野菜園芸組合連合会、「ちばエコ農業」生産者協議会は、東京都中央卸売市場大田市場で「千葉県秋冬野菜販売出陣式」と銘打ったセールスプロモーションを開催しました。

大田市場が開場して30年目の節目となる今年は、本県産青果物の長年の御愛顧に対する感謝と、今後のより一層の取扱いをお願いするため、JAグループ千葉の17JAが参加するなど、例年を上回る規模での開催となり、会場は多くの市場関係者でにぎわいました。



主催者と各JAの組合長・代表と一緒にPRを行いました

本年の秋冬野菜は、10月の台風24号の影響により、一部の品目では生育の遅れなどがあったものの、産地の生産者の懸命の努力と技術力により作柄は回復に向かっています。当日の会場では、各産地の主力36品目の旬を迎えた多彩な青果物を展示。本県産秋冬野菜の本格出荷を心待ちにしていた買参人等が展示に熱心に見入る光景が見られました。

東京青果(株)の卸売場では、千葉県滝川副知事、全農千葉県本部林運営委員会会長が挨拶に立ち、それぞれ、品目の豊富さと品質の高さをPRし、市場関係者に県産青果物の一層の御愛顧と更なる販売のお願いをしました。

試食品は、毎年恒例の旬彩スープ(ねぎ、だいこん)のほか、ベニアズマを使ったさつまいも餡、新品目の青パイヤとにんじんの細切りを炒めたしりしりなど、シンプルながら素材の味がよく分かるものを提供。試食した買参人からは「おいしいね」、「もう1個ちょうだい!」といった声も聞かれ、用意した各400人分はあっという間に完食となりました。



多くの買参人でにぎわい、試食品も好評でした

また、引き続き行われた、東京荏原青果(株)の卸売場におけるPRでも、本県産秋冬野菜の益々の御愛顧をお願いしました。

11月からは卸売各社と連携した、量販店での千葉県フェアも実施中です。今後とも、より多くの消費者及び流通関係者に、本県農産物のファンになっていただけるよう、県、関係機関が一体となった販売PRに努めてまいります。

頑張る産地



海匠地区のミニトマト若手生産者 で進む環境制御技術 ～「統合環境制御研究会 NEXT (ネクスト)」の活動～

海匠農業事務所 改良普及課
普及技術員 高田 伯約

J A ちばみどり干潟ミニトマト部会に所属する若手ミニトマト生産者の中で、収量や秀品率の向上を目指した、環境制御の取組が活発になっています。

今回は平成 28 年秋に若手ミニトマト生産者が自主的に立ち上げた環境制御技術に関する勉強会グループである「統合環境制御研究会 NEXT (ネクスト)」の活動について紹介します。

1 はじめに

旭市の J A ちばみどり干潟ミニトマト部会は約 40 戸の生産者で構成されており、若手生産者が多い出荷組織です。近年は単収の向上や秀品率の向上を目的に、環境制御の必要性が改めて認識され、施設内の環境モニタリング装置や炭酸ガス施用機等の導入が進んでいます。

2 環境制御技術に関する勉強会の活動

環境制御は施設内の温度・湿度・炭酸ガス濃度などの環境条件を、植物がより光合成しやすく、生育に適した環境に調整することで、植物の生育を促進させる技術です。

「統合環境制御研究会 NEXT (ネクスト)」は、先駆的に環境制御システムを導入した 30 代の生産者が中心となり、地域の若手ミニトマト生産者 11 名によって自主的に結成された研究会です。毎月 1 回、定期的に現地検討会を実施することで会員間の環境制御技術について理解を深め、技術の確立を図っています。また、環境制御機器メーカーから講師を招き、環境制御によって変化する肥培管理や水管理等についても、植物の生育に合わせた適切な管理方法を学んでいます。

参加している若手生産者は、生育状況と環境モニタリング結果を見ながら栽培環境を改善することにより、増収効果が見られ、環境制御に取り組む以前の約 1.5 倍となる 20t/10a の収量を達成した生産者も現れています。

今後は更なる収量の増加や秀品率の向上のほか、栽培管理技術の高位平準化を目指して、定期的な勉強会や現地検討会の開催を継続していきます。



現地検討会の様子

3 今後の取組

今後は、環境制御に関する機器をより効率的に活用するために、研究会員の施設内環境データと収量データの分析を積み重ね、より適切な管理の検討を進めていきます。

また、J A ちばみどり干潟ミニトマト部会全体で新たに環境制御に関する機器の導入に取り組む生産者が、スムーズに機器を利用できるよう研究会員の環境制御技術導入事例の取りまとめを検討しています。



水管理について確認する若手生産者

花植木ニュース



EOD-heating 処理を応用した アジサイの低コスト栽培技術の開発

農林総合研究センター 花植木研究室
研究員 中島 拓

アジサイ栽培における暖房コスト削減を目的に、EOD-heating 処理を応用した変温管理技術を開発しました。

従来の夜間一定加温に比べ、約2割の暖房コスト削減が可能となります。

1 はじめに

近年、母の日の新たな商材として、鉢物アジサイの需要が高まっています。アジサイを母の日に合わせて出荷するには、4月下旬から5月上旬までに開花させなくてはなりません。そのためには、2月上旬から暖房を開始する必要があります。この作型は、一年で最も寒い時期に暖房を行うため、燃料コストが高くなります。そこで、EOD-heating 処理と呼ばれる方法を応用した変温管理技術を用いることで、燃料消費量を削減する栽培方法を開発したので、御紹介します。

2 EOD-heating 処理とは

EODとはEnd of Day(日の入り)の略で、日の入り後の数時間の温度を上げて加温する方法をEOD-heating 処理と呼びます。この時間帯の温度は開花に大きく影響することが知られており、この処理を行うと開花の早まることが複数の植物で報告されています。

3 EOD-heating 処理を応用した変温管理栽培

アジサイの夜間の暖房は、一定の温度で加温する方法が一般的です。EOD-heating 処理を行うことで開花が早まるのであれば、それ以外の時間帯をこれまでより低い温度で加温しても、慣行と同時期に開花させることができるのではないかと考えました。そこで、日の入り後3時間を20℃で加温し、その後日の出までを12℃とするEOD20℃/12℃の変温管理栽培と、慣行の16℃一定加温栽培が開花及び生育に及ぼす影響を比較しました。

4 変温管理栽培による燃料消費量の削減

EOD20℃/12℃栽培の燃料消費量は16℃一定加温栽培に比べ、約20%減少しました(表1)。

表1 加温方法の違いが燃料消費量に及ぼす影響

加温方法	燃料消費量	
	実数 (L)	割合 (%)
EOD20℃/12℃	620	79.3
16℃一定	782	100.0

注1) 加温方法: EOD20℃/12℃; 日の入り後3時間20℃、その後日の出まで12℃加温
16℃一定; 日の入りから日の出まで16℃加温

2) 燃料消費量はW5.6m×D9.0m×H3.8mのガラスハウスにおいてネボン株式会社製温風機(KA-125: 燃料消費量1.7L/h、定格暖房出力14W)を用いた際の灯油の消費量を示す

3) 燃料消費量: 実数(L)は平成28年2月4日~4月30日の値を示す
割合は16℃一定区の値を100として換算した際の値を示す

5 変温管理栽培が開花及び生育に及ぼす影響

EOD20℃/12℃栽培した株の開花日及び草姿は16℃一定加温栽培と同等となりました(表2)。

これらのことから、EOD20℃/12℃栽培を行うことで、16℃一定加温栽培に比べ暖房の燃料消費量を約2割削減させつつ、同等の草姿のものを同時期に開花させることができます。

表2 加温方法の違いがアジサイ「ピンクダイヤモンド」の開花及び生育に及ぼす影響

加温方法	開花日	草丈 (cm)	株幅 (cm)	新梢長 (cm)	花房径 (cm)
EOD20℃/12℃	4月26日	34.9	42.6	18.7	23.4
16℃一定	4月25日	35.8	42.7	17.9	23.4

注1) 加温方法: 表1と同様

2) 耕種概要: 挿し芽; 平成27年5月8日 鉢上げ(3号ポット); 平成27年7月9日 鉢替え(5号鉢); 平成28年1月28日 加温期間; 平成28年2月3日~4月30日

3) いずれの項目も分散分析で有意差は認められなかった

6 おわりに

EOD-heating 処理を応用した変温管理栽培は日の入り後の温度確保が重要です。アジサイでは、この時間帯の温度が十分に確保できないと開花が遅れ、草丈が長くなることが明らかとなっています。本技術の導入の際には、事前に暖房機の性能と温度確保のできることを確認しておく必要があります。



チャレンジ！「ちばの夏野菜」安定供給 支援事業を活用した夏野菜の生産振興

生産振興課 園芸振興室

県では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い需要の拡大が見込まれる夏野菜の安定生産に向けて、平成30年度に新たに立ち上げた『チャレンジ！「ちばの夏野菜」安定供給支援事業』を活用して産地の取組を支援しています。

1 事業概要

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック（以下、オリ・パラ）では、日本人観光客の増加やインバウンド需要の高まり、オリ・パラへの食材提供等により、国産野菜において需要が高まることが予想されています。その一方で、大会期間中は生育環境が高温・乾燥になることや台風の襲来等により、夏野菜の安定生産が難しく、需要に十分にこたえることができない可能性があります。そこで県では、技術的に難しい夏野菜の安定生産にチャレンジする生産者組織等への支援を目的に、今年度から新たに『チャレンジ！「ちばの夏野菜」安定供給支援事業』を事業化しました。

産地となっています。そこで、本事業を活用し同期間の安定出荷に向けて以下の取組が行われました。

品目	目標	取組内容
えだまめ	8月～10月の安定出荷	品種比較及び播種時期の変更
とうもろこし	8月～10月の安定出荷	品種比較及び播種時期の変更
ハーブ類	7月～9月の安定出荷	品種比較
すいか	7月～9月の安定出荷	3倍体・黒皮すいかと抑制すいかの品種比較試験・食味調査

【事業概要】

項目	内容
事業名	チャレンジ！「ちばの夏野菜」安定供給支援事業
事業実施主体	農業協同組合、3戸以上の農業者で組織された生産者組織等
補助対象項目	県産の夏野菜を安定供給するために必要な実証ほの設置や実証ほを活用した研修会等の取組に係る経費
補助率	定額（上限：50万円）

※詳細は補助金交付要綱・事業実施要領を御覧ください。

2 取組内容

今年度は、県内2地区（東葛飾・印旛）で、えだまめ、とうもろこし、ハーブ類、すいかの4品目について本事業の活用がありました。上記品目の多くは本県の主要夏野菜として位置づけられているものの、オリ・パラの開催期間（7月下旬～9月上旬）については、出荷最盛期を過ぎており、山形県や秋田県といった東北産地が主要

3 今後の取組

今年の夏は平年に比べて気温が高かったこともあり、安定生産に向けた取組を行う上で厳しい環境となりました。今回の実証試験により有望品種の選定が進んだ品目がある一方で、一部で生育不良になるなど、課題が判明した品目もありました。しかし、今回の実証を通じて各品目についての課題解決に向けた対応が明らかになってきました。

県では、今後もオリ・パラにおける県産夏野菜の安定供給を図るため、本事業の推進や得られた知見の情報提供、周辺産地への働きかけなどの取組について、関係機関と連携して支援して参ります。



実証試験（えだまめ）



実証試験（すいか）

農地中間管理事業を活用した新規就農者支援

公益社団法人千葉県園芸協会
農地部 (農地中間管理機構)
山武支部 農地活用推進員 林 亮一

今、農業は、後継者不足、農業者の高齢化等々、農業人口及び労働力の減少に歯止めが掛からない状況です。そんな農業情勢の中、農業に魅力を感じ新たに「農業がやりたい」と言う、新規就農者に農地中間管理事業を通じて就農支援をした事例を紹介いたします。

新規就農者 安田 智洋氏 現在 35 歳 八街市在住 (山武市に隣接)

1 経過①

平成 28 年 10 月、さんぶ野菜ネットワーク (有機農業・農事組合法人、山武市埴谷、以下ネットワーク) の下山久信局長から新規就農予定者の農地斡旋の依頼を受けました。新規就農者の安田氏はネットワーク代表・富谷亜喜博宅で研修中、翌年 4 月より就農予定との情報を得ました。安田氏との面談、富谷代表との意見交換を重ね、借入候補地の情報収集に努めました。ネットワーク会員 (佐藤氏) から、出し手情報・紹介を頂き、約 120 a の畑を借受けることができました。120 a の畑を安田氏と新規就農者 A 氏に、60 a ずつの貸付けを行いました。

2 経過②

平成 28 年 11 月、安田氏から「自宅脇の畑が耕作していないが、借りられないか？」という相談がありました。現地を確認すると、ここ数年管理がされていない畑があり、所有者も高齢であり自宅にいないようでした。その農地についての情報を八街市役所に問合せたところ、その農地は前年度に農地中間管理事業の「貸付申込書」が提出されていることが分かりました。農地の所有者が埼玉県在住の方ということであり、さっそく連絡を取ったところ、好感触で八街市に住んでいる方は母親であることが分かりました。その後、農地所有者に、農地中間管理事業の説明や貸付内容・条件等について出し手、受け手との調整を図り、双方に貸借りの内容について御理解いただいた上で、後日、八街市の母親宅で受け手の紹介と畑面積約 70 a となる契約の締結に結びつけました。

3 経過③

平成 30 年 3 月、作付が順調となり労働力確保のため、就農予定者 1 名を雇い入れることといたしました。

平成 30 年 5 月、平成 28 年 10 月 (経過①に記載) に畑 120a を新規就農者 A 氏と安田氏に分けて貸付けをしましたが、新規就農者 A 氏の借家脇の畑約 50a を新たに借りることができたので、その 50a

を新規就農者 A 氏に貸付け、安田氏と分け合った 60a を機構に返してもらい、新たに面積拡大を願っていた安田氏に貸付けることにしました。

農地中間管理事業は、ただ単に農地を借受け、貸付けるだけの事業ではないと考えています。特に、新規就農者に関しては、農地の管理状況を把握し、声を掛けることが必要かつ重要と思います。

【現在の安田氏の経営状況】

畑面積 190a

労働力 2 名 (安田氏と雇用 1 名)

妻は別の仕事をしているため、休みの時に手伝いをしている。(※今後、妻も就農予定。)

主な作付品目 (将来は有機栽培を目指す。現在は、特別栽培) にんじん 30a、レタス 20a、ブロッコリー 20a、さといも 18a、なす 10a、ズッキーニ 10a、ほうれんそう 10a、こまつな 10a、ほか、すいか、かぼちゃ、そらまめ、えだまめ等々を栽培。

4 安田氏のコメント

「農地を借りるのは、あまりよく分かっていなかったもので、農地中間管理機構に間に入ってもらい大変助かりました。直接、地主に言いづらいことも、機構に相談して納得のできる結果となり、今後も、新規就農者のために、頑張ってほしい。」とコメントをいただきました。



作業場での作業風景

平成 29 年 3 月新築 作業場兼倉庫 鉄骨造り 49.5 m²

第39回千葉県フラワーフェスティバル

年に一度の“ちばの花の祭典“が開催されます。会場には千葉県産の切花、鉢花、観葉植物、洋らんが展示されます。ひと足早い春の訪れをお楽しみください。

- 会期 平成31年1月11日(金)～14日(月・祝)
- 会場 そごう・西武そごう千葉店6階催事場
(JR、京成、千葉モノレール「千葉駅」から徒歩約1分)
- 内容 花の品評会(出品点数約580点(予定))
各種団体による花のディスプレイ
花の教室
花の即売会、模擬ゼリなど
- 問合せ 生産振興課園芸振興室
電話 043-223-2871



第38回 メインディスプレイ

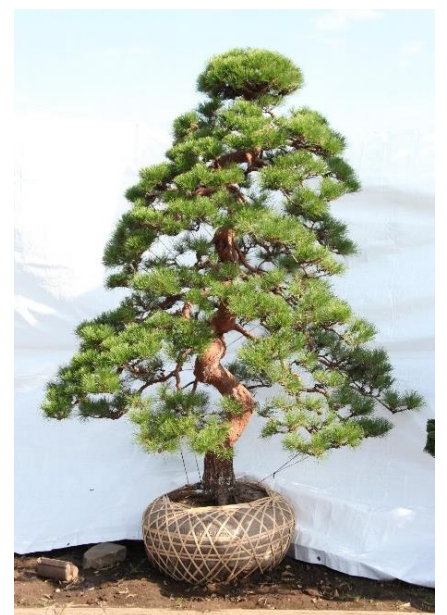
第46回千葉県植木共進会開催結果

生産振興課園芸振興室

去る10月26日、東金市で第46回千葉県植木共進会審査会が開催され、県内の植木生産組合等から208点が出品されました。翌27日～28日には、同会場で千葉県植木まつりを開催し、県産植木の造形技術のすばらしさや多様な植木生産の認識を深めてもらう良い機会となりました。

特別賞入賞者

賞名	所属組合	樹種	受賞者氏名
農林水産大臣賞	東金	天目松	松崎善一
千葉県知事賞	東金	ゴヨウマツ	中村 孝
千葉県議会議長賞	東金	クロマツ	野島 等
千葉県農林総合研究センター長賞	匝 瑳	万両	伊藤良行
千葉県山武農業事務所長賞	東金	マキ	中村 孝
東金市長賞	東金	ソテツ	中村 孝
東金市議会議長賞	東金	天目松	石田敏男
公益社団法人千葉県園芸協会会長賞	匝 瑳	フェイジョア	佐瀬雅之
千葉県農業協同組合中央会長賞	八 街	ブルーカーペット	三須清貴
全国農業協同組合連合会 千葉県本部運営委員会会長賞	匝 瑳	トキワマンサク	嶋田真大
千葉県JAバンク運営協議会会長賞	八 街	ハイビヤクシン	三須清貴
千葉県農業会議会長賞	匝 瑳	レイランディー	伊藤 清
一般社団法人千葉県造園緑化協会会長賞	匝 瑳	クスノキ	伊藤良行
千葉県造園建設業協同組合理事長賞	創 樹	常緑ヤマボウシ	大宮芳幸
公益社団法人千葉県観光物産協会会長賞	創 樹	リトルジェム	大宮芳幸
山武郡市農業協同組合長賞	東金	黄金モチ	宮山 操
千葉県植木生産組合連合会长賞	東金	常緑ヤマボウシ	宮山 操



農林水産大臣賞：天目松